

名古屋芸術大学グループ 28 July 2014 通信

Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OB

伝統と前衛と

矢部俊一

NUA-Student

人間発達学部2年

新美良太郎

Lecture

【レクチャー】

特別講義や講演会など

■ クリエイティブディレクター

坂上 博氏による

特別講座が行われました

International exchange

Activity

【国際交流活動】

海外の学術姉妹提携校との交流活動など

■ パリ エコール・ノルマル音楽院副校長による

公開講座が行われました

News/Topics

ニュース&トピックス

人間発達学部

■ 2014年度 にこにこワークショップを開催中です

音楽学部

■ バーカッション フェスティバル

2014 イン ナゴヤが開催されました

■ 音楽学部同窓会

第33回 新人演奏会が開催されました

■ コンクール入賞者の

表彰式が行われました

美術学部・デザイン学部

■ 津島市×名古屋芸術大学 音楽連携プロジェクト

「ふれあい」の串刺しから

■ ㈱ワールド×名古屋芸術大学 産学連携事業

MozoワンダーシティーFLAXUS

ウインドウディスプレイ制作

■ 美術・デザイン学部

OB・OG展が開催されました

■ 木村節治展

Fish-vol.5が開催されました

■ 名古屋芸大グループ特集

名古屋音楽学校

コラムNUA

「科学とアート、子育て」

音楽学部教養部会 准教授 茶谷 薫

Master Artist

マスターアーティスト

メディアと人と

大学院デザイン研究科准教授

デザイン学部准教授・デザイン学科主任

津田佳紀

Information

インフォメーション

■ 出版

■ 2014年度 音楽学部 演奏会スケジュール

■ 2014年度 オープンキャンパス日程

■ アート&デザインセンター

2014年度展覧会スケジュール



制作の最前線
工房を
訪ねて

①
熱くても集中!
ガラス工房



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

- 名古屋芸術大学 / 大学院: 音楽研究科 学部: 音楽学部
- 美術研究科 美術学部
- デザイン研究科 デザイン学部
- 人間発達学研究科 人間発達学部
- 名古屋芸術大学保育・福祉専門学校
- 名古屋芸術大学附属クリエイト幼稚園
- 滝子幼稚園 たきこ幼稚園
- 名古屋音楽学校 (名古屋芸術大学 兼 サテライト)



熱くても集中！ ガラス工房

ステンレス製のパイプ（吹き竿）でガラスを水飴のように巻き取ります。常にパイプを回転させていないと垂れてしまいます。“ダルマ”で温め、作業イスで成形、を何度も繰り返し作品を作っていきます。

本学には、数々の“充実した工房”があります。工房は、必要なときにいつでも利用でき、制作に没頭できる場所。学生たちにとって、理想的な制作環境です。今回からは、この工房を紹介していきます。まず第1回目は「ガラス工房」。西キャンパスの一番端、E棟にあります。吹きガラスの授業を見せていただき、その後、教室でバーナーワークやガラス鑄造の型作りなど作業を見学。非常勤講師の松藤孝一先生、津坂陽介先生、技術員として工房を管理するたかぎあきこさんにお話を伺いました。





【徐冷炉】

完成した作品は徐冷炉に入れて、1日かけてゆっくりと冷まします。ゆっくり冷やさないとヒビが入ったり割れてしまったりします。60℃以下になるまで冷まします。



徐冷炉がたくさん用意されているのも本学ガラス工房の大きな特徴。一度にたくさんの作品を作ったり、多くの学生の利用に対応しています。



【作業イス】

巻いたガラスを成形する作業イス。大きなピンセットのような「洋バシ」や濡らした新聞紙を折りたんだ「紙リン」を使って形を整えます。



【溶解炉】

扉の向こう側にはドロドロに溶けたガラス。1200～1300℃にも達します。



【グローリーホール（通称「ダルマ」）】

ガラスは成形途中で冷えて固まってきます。そこで再度ガラスを温め直しますが、そのための設備がグローリーホールです。日本の職人さんには「ダルマ」と呼ばれています。太鼓のような形で左右から同時に使うことができます。



【電気炉】

こちらは吹きガラスではなく、キルンワークで使う電気炉です。常温の硬いガラスを型に入れて錆込んだり、曲げ、溶着などを行います。



【研磨・断裁設備】

ほかにも大小の平盤やベルトサンダー、ホイール、ダイヤモンドソーなど、研磨や切断に使用する設備も整っています。

【吹きガラス】

吹き竿に巻き取り成形します。ガラスの状態を見ながら、イメージ通りの形に仕上げしていきます。



【バーナーワーク】

教室ではバーナーを使っての成型ができます。



【キルンキャスト】

粘土やワックスで作った原型から石膏で型を取り、ガラスを鑄込みます。



ガラス 工房の 3人に

聞きました

国内でも有数の設備を誇るガラス工房

工房の設備についてですが、なかなかないものなんですか？

松 藤：津坂先生は、日本でも有数の設備を保有している富山ガラス造形研究所の出身ですが、それと比べても遜色ないような設備ですよ。

津 坂：そうですね。人数当たりの設備の量が多いので、窯の数なんかでもそうですが、学生にしたらかなり贅沢に使えています。僕が始めたころはバブル景気と重なっていて、色んな大学でガラスの設備を整え始めた頃ですが、これから先はなかなかこのように設備を整えるということが難しくなっていると思います。これから他所で設備が増えるということは考えにくいのではないかと思います。この設備を自由に使えるというのは本当に贅沢なことだと思いますよ！

松 藤：近年では、他大学や専門学校から3年編入として、またアジアからの留学生もガラスコースに来るようになりました。これも前任のマイケル・シャイナー先生が設備を整えてくれたおかげです。溶解炉は常時300kgのガラスが溶けているんですよ。

溶解炉の火を落とすことはあるんですか？

松 藤：春・夏休み以外は、火を燃やし続けて温度をキープしています。火を落とすわけにはいきませんから、燃料代がかかりますね。

たかぎ：教育機関だから出来ることですね。

松 藤：今は電気の溶解炉も増えてきていますが、将来は太陽光なんかでできるといんだけどなあ……（願望）。津坂先生は個人工房をお持ちで、すごいと思うんですよ。自分で、特に吹きガラスの溶解炉を維持となると、最初の初期投資だけじゃないですよ。毎月のランニングコストも大変だと思います。

津 坂：あれがなかったら、今ごろすごいリッチな生活ができるのに（笑）

チームワークが自然と身に付く

設備の管理とか大変だと思いますがいかがですか？

たかぎ：そうですねえ。でもまずは、事故がないように気を付けています。学生が怪我をしないように怪我し



ないための使い方を、学生みんなにしっかり伝えています。始めたばかりの学生には何度も繰り返して教えなければいけません、私がない時などは、先輩たちが先輩に教えるということができています。日常的なコミュニケーションやチームワークの良さを感じます。

津 坂：チームワークについては、吹きガラスの作業そのものに理由がありまして、1人でもできなくはないのですが、基本的には常に2人で組になって1人が作ってもう1人がアシスタントをやります。こういうこともあってチームワークは自然と作られるようになっていきます。チームワークの良さは、工房全体の雰囲気にもかかっていると思います。

松 藤：この社会で、たとえ卒業して吹きガラスとかガラスに携わらなくても、コミュニケーションや人との

つき合いが大事ですよ。そういうことも自然と身に付くのではないかと思います。

たかぎ：たぶん、気も利くようになります（笑）。

真剣に取り組んでいる学生がとても印象的でした

松 藤：そうですね、ガラスは専門性が強く、高校まで触ったことのない素材です。学生は一度学ぶと没頭してやっています。

津 坂：手で触って形を作ることができないので、集中してじっくりと取り組むしかありませんからね。

松 藤：吹きガラスやバーナーワークなどはいくらデッサンがうまくても、実際にやってみるとその通りの形にはできないんですよ。それよりは、作りたいというエネルギーがすごく大事で、そのエネルギーで創作をやっていくようなところがあります。吹きガラスは、特にそういう傾向が強いですね。



松藤孝一

非常勤講師

1995年 愛知教育大学卒業後、財団法人ポーラ美術振興財団の在外研修助成により渡米
 2001年 イリノイ州立大学美術学部修士課程を修了
 2008年 「灌える宙」(テーマ展)愛知県美術館(名古屋)
 2013年 「あいちトリエンナーレ」(企画コンペ)伏見地下街(名古屋)
 ロックフォード美術館(アメリカ)やエベルトフト・ガラス美術館(デンマーク)などに作品所蔵



津坂陽介

非常勤講師

1998年 富山ガラス造形研究所 造形科 卒業
 2000年 富山ガラス造形研究所 研究科 卒業
 ジム・モングレン GlassStudio アシスタント(シアトル/UAS)
 2007年 富山ガラス造形研究所 助手
 2010年 個人工房「日の出ガラス芸社」設立



たかぎあきこ

技術員

2006年 名古屋芸術大学美術学部造形科 卒業
 2008-2011年 ガラス工房 SILICA 勤務
 2011年 大阪・東京のガラス工房 勤務
 2013年 「Cute Little Things」(spectrum gallery)
 2014年 「たかぎあきこ 展 -AKIKO TAKAGI GLASS EXHIBITION-」(ギャラリー龍屋)
 2014年 クリエイターズマーケット
 ギャラリー&画廊招待ブース出展

やってみると伝わるガラスの面白さ

「アートクリエイターコースのお話を伺ったとき、平面に行きたがって入ってくる学生は多いものの、立体に興味を持ってくれる学生が減ってきていると聞きました。ガラスを選択する学生さんに変化はありますか？」

松 藤：アートクリエイター以前は、工芸という領域でしたので、最初からガラスというふうにきめてくる学生しかいませんでした。でも、大きなアートクリエイターという枠組みになって、多くの学生に興味をもたれています。

たかぎ：アートクリエイターからこちらに来る学生は絵を描ける子が多いこともあって、ガラスに絵を描くエナメル絵付けに興味を持つ学生が増えました。

「やってみるとガラスって良さが伝わるものなんでしょうか？」

松 藤：そうですね。

たかぎ：そうですね。

津 坂：(うん、うん、と大きくなずく)

「学生には、どんなことを学んでほしいと思いますか？」

松 藤：最初は、やっぱり興味を持ってもらうということですね。ガラスは、技術員のたかぎさんが工房にいて管理しつつ、4人の非常勤の先生で教えています。4人、それぞれの得意分野が異なっていて、僕はキルンキャスト、津坂先生は吹きガラス、ほかの先生にもそれぞれ得意分野があります。それぞれの先生が、自分の特色を活かして幅

広く学生に伝えていけるようになっていきます。学生には、いずれかの分野に興味を持ってもらい、それを出発点にして自分の表現を高めていくようになっていきます。それぞれの先生の課題に取り組むことで、少しずつレベルがアップしていきます。1、2年生の間には技術を中心に教えて行きますが、3年生からはガラスという素材の勉強も同時に行いながら、表現力を養っていきます。

宝石、透明感、音、光……

「皆さんはガラス作家としての活動も行っています。一作家として、ガラスの魅力ってどんなことですか？」

津 坂：僕は、宝石を扱うような感じで、ガラスに触れることを大事にしています。昔はダイヤモンドの代わりだったり、水晶と同じ価値があったりとか、300~400年前は、ガラスに世界中が熱狂していたわけです。その時代の雰囲気は僕は作品の中で大事にしていきたいと考えています。ダイヤや水晶を溶かして形をつくっているという楽しさがあるという感じですかね。豪華な宝石のイメージですね。

たかぎ：私は、ガラスは色を付けたら透明じゃないものもありますけど、やっぱり光を通す透明感とか、光を通した時にうつる影とか、あと、音ですね。ガラス同士がぶつかったときに、ワイングラスで乾杯し

た時なんかの音、そういうことが自分では気になっていて、作品に取り入れたりとかしています。そういうところが魅力ですね。

松 藤：私はガラスに宇宙を感じますね。1300℃という超高温で熱せられ、そして冷やされた透明の物質、ガラスには、想像もできないような未知なるエネルギーが見えてきます。そして、どんな光にも対応できる性質のガラスは凄いです。

「作品ができていく過程もすごくドラマチックで、鑑賞する側はそこも一緒に見たい気がしますね。」

松 藤：去年でしたが、大学院の授業でガラス工房へ行って、窯からガラスを巻いて見てもらいましたが、驚きがすごいですよね。ガラスを巻いて1300℃のドロドロの状態が、ほんの1、2分で固まって行って、すぐにさわれるほどにまで温度が下がる。またそれを窯に入れば溶けて戻る。ガラスの、面白さや不思議さを感じてもらったと思います。

津 坂：日常生活にないものばかりなんですよね。溶けたガラスも、割れたガラスでさえも。家でコップ割れたらおおごとじゃないですか。でも、工房だと砕けているのは当たり前ですし、作業中、あの細い棒をくるくる回すなんていうことも普段の生活にはない動きです。そういった、普段の生活にはないことばかりが集まっているので、そこがまた面白いところだと思います。

Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism



備前月山2012 撮影：岡村靖子



計算しつくされた線と面。シンプルで無駄のない造形が濃
とした存在感と緊張感を生み出している。2012年に制作
された「月山」の一つは、大英博物館に収蔵されている。



岡山駅から、クルマで15分程度のところにある「スタジオ」にお邪魔した。備前焼といえば備前市伊部だが、そこから30kmほど離れた岡山市内のスタジオが活動の拠点となっている。聞けば、備前の作家は300名にもものぼるそうで、その中に埋没してしまわないように、また、作家同士の内輪な関係からも少し距離を置きたいという理由で、伊部から離れているのだそう。

和して同ぜず、ということなのだろう。スタジオは、倉庫を改造したギャラリー兼自宅で、1階部分には工房も備える。2階のギャラリーに案内されると、壁の棚に、端正なたずまいの焼き物が並べられている。いずれも備前焼特有の赤で、深く繊細な色合いをたたえている。そして、ギャラリーの奥には、複雑な曲線と滑らかな面で構成された、しかし紛れもなく備前焼のオブジェが飾られ、確かな存在感を放っている。古典的な作品と先鋭的な作品が、備前という共通項で結ばれ不思議な調和を見せている。茶碗を指すと「こっちの仕事は、自分がこういう家業のところに生まれた責任みたいなもの、奥の作品は、自分との戦いというか、まったく別の意識で作っているものなんです」という。



彫刻家になりたいという気持ちで芸大を目指した。東京で浪人生活を送り、本音の部分では東京の大学に進みたいと考えていた。しかし、至らず本学の彫刻科へ進む。「はじめは、仮面浪人して、もう一度、東京の大学を受験し直そうかと思ってましたよ。でも、

Find us on Facebook



伝統と前衛と

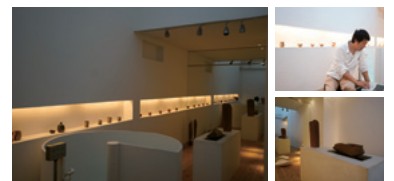
マーケットや仕事というのは世界にいっぱいある。日本よりも世界の方にあります。



備前光風2013 撮影：小林庸浩 提供：西福ギャラリー

入学してすぐ、つまらないことで上級生と大喧嘩して、服がビリビリになるほどの殴り合いですよ。そういうことがあってから、かえってかわいがってもらえるようになって、学校に馴染みましたね」学生時代を過ごした本学と名古屋の街には格別の思いを寄せるが、東京への気持ちは消えたわけではない。「東京に忘れ物をしているんです。忘れ物を取り返すことが、作品を作るモチベーションですね」備前の技法を駆使した彫刻作品は、そんな気持ちから生み出されている。

海外での評価を伺うと、面白い答えが返ってきた。「大学で教わる絵画でも彫刻でも、西洋美術がメインですが、西洋のものを取り入れてそれをそのまま海外へ持って行っても、評価されにくいんです。あっちは本家本元ですから、もっと凄いものがあるし、これまで蓄積された膨大な作品があります。西洋のものを持って行くのではなく、日本の美術を海外へ持って行くということが一つの流れになっています。日本というものの自体がコンセプトなんです」そして、答えに窮する。では、自分は何なのか。西洋的なものを捨てた時に何が残るのか。すべて引き算したときに、



スタジオの2階部分はギャラリーとなっている。伝統的な備前作品と現代的な彫刻が共存する空間。

Vol.57 NUA-OB

矢部俊一 (やべ しゅんいち)
陶芸家 www.kukoku.jp

- 1968年 岡山県備前市生まれ
- 1992年 名古屋芸術大学彫刻科 修了
- 2004年 岡山県美術展岡山県知事賞受賞
茶の湯の造形展入選 (以降5回)
- 2006年 岡山県美術展県展賞受賞 (以降6回)
- 2008年 日本伝統工芸中国支部展テレビせとうち賞受賞
第46回朝日陶芸展入選
- 2009年 第3回菊池ビエンナーレ入選
- 2010年 日本伝統工芸中国支部展広島県知事賞受賞
第25回国民文化祭美術展備前市長賞受賞
第9回国際陶磁器フェスティバル美濃入選
- 2011年 西福ギャラリーにて個展、Art Fair「Collect」出品 (英・ロンドン)
Marianne Heller Galleryにてグループ展 (独・ハイデルベルグ)
- 2012年 西福ギャラリーにて個展、名古屋松坂屋にて個展
Art Fair「Collect」出品 (英・ロンドン)
- 2013年 Fine Art Fair「AFAF」(米・パームビーチ)、「TEFAF」(蘭・マーストリヒト)、「Collect」(英・ロンドン) 出品
- 2014年 中学生の頃から彫刻家に憧れ、本学彫刻科に入学。卒業後に、祖父 山本陶秀 (人間国宝)、父 矢部篤郎の指導を受け、独立。備前焼の伝統を受け継ぎながら現代的な作品を発表している。



焼は狙ってやっていますからね、完全に。備前では偶発性のないものは、国内では評価されにくく、難しさがありますね。彫刻というのは、中心から外に向かって力が働いていく、それを意識しながら作っていきます。それと全く同じです。

残っているものから自分を再構築するような作業に取り組んでいるという。「茶碗の仕事は、シャッターをたくさん切る写真の撮り方に似ていると思う。その中からいいものだけを選び出す。オブジェの方は、入念な準備をして完全に作り込んで、ワンカットだけ撮るようなイメージで、対極にあるように感じています」



最近の彫塑コースのことを気にかけてながら、後輩達へ言葉をくれた。「どんな仕事でも当たり前ですが、自分一人ではできません。いろんな人がいて、自分がある。なんにせよ一生懸命やって、最終的に自分のところに帰ってくるくらいのつもりで、人間力を高めるなんていうと、ちょっとおかしいかもしれませんが、そういうことではないかと思えますよ」加えて「少年漫画と同じで、どんどん新しい敵が出てくる(笑)。それは自分がレベルアップしたから。結局、戦っている相手は自分自身ですよ」と語ってくれた。最前線で戦い続ける当事者は、内包するエネルギーをさらに大きな輝きで見せてくれるに違いない。

何でも見てやろう



Vol.58
NUA-Student
新美良太郎
(にいみりょうたろう)
人間発達学部2年

一休学して自転車で日本一周に出かけたって聞いたけどどうして?

小学校の先生になることが目的で大学に入ったんですけど、1年間学校へ通ってみて、あと3年間このまま真面目に通って勉強していたら教員免許がもらえて、そのまま教員採用試験に受かるってなったら、先生になれてしまうと思ったら、無理だなって思ったんです。

一どういこと? 何が無理なの(笑)??

人間的にになにかすごくつまらないなと思います。自分の小学、中学のことを考えてみた時に、面白い先生と面白くない先生がいたんですね。この先生は、授業はわかりやすいけど何かつまらないな、とか。そういうのがあったので、どうせなら面白い先生になりたいなと思って、それで自転車です。

一ネタを仕込みに自転車で(笑)!

そうですね。いろんなところを見たくて。地元は半田市で、高校も名古屋市内、大学も愛知県、両親の実家も知多半島周辺で、全部、知多半島のあたりで収まっているんで、それで見聞を広めようと(笑)。愛知県以外のところへは、旅行くらいしか出たことがなくて、ほかのところにも人が住んでいて生活があるんだということを実感しに行きたかったんです。どうせなら人力の方がいいと思って。歩く、走る、自転車だったら、やっぱり自転車かなと。出発の3、4日前になってから自転車を買いに行つて、2、3万円のママチャリよりもちょっとだけ良さそうな、でも普通の自転車を買いました。

一休学してまでとなると、両親に反対されなかった?

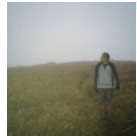
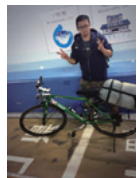
両親が「行け、行け」って、言うんです。おもに父が「行ってこい」って。旅行好きで、学生のこ



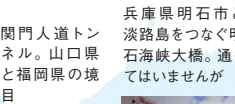
野宿の様子。道の駅のベンチ等で寝袋に入って寝る。ハンドルに掛かっている袋は一般の方に頂いた食料が入っています。



野宿中に出会ったバイカーさんに撮って頂いた。



広島県宮島の厳島神社。フェリーで渡りました



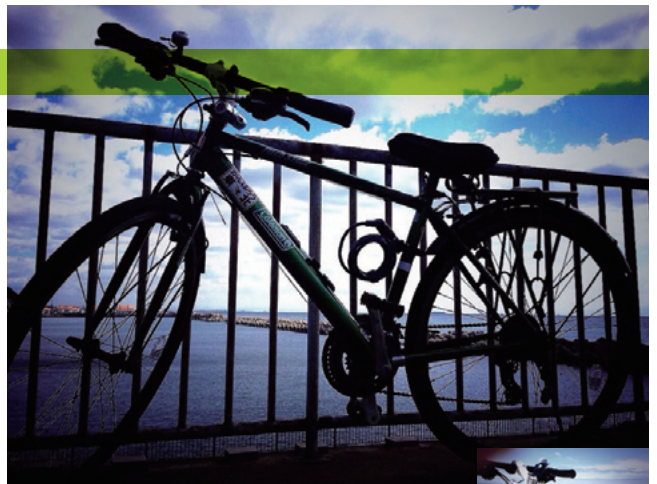
兵庫県明石市と淡路島をつなぐ明石海峡大橋。通ってはいませんが

熊本県阿蘇山。霧深く肌寒かった

長崎県長崎市眼鏡橋

鹿児島県西大山駅。沖縄県には駅が無いのでここが日本最南端の駅

鹿児島県桜島。この後噴火した



北海道石狩川

北海道の海と自転車



北海道の巨大テトラポッドと自転車



宮城県仙台。津波で流され土台だけ残った家の跡、倒された木々



三重県にて大雪に見舞われる。気合いで進んだ



高知県室戸岬



和歌山県白浜にある日本最古の温泉崎の湯と白良浜



和歌山県潮岬にて。本州最南端

ろに結構いろんなところに行ったりとかしてみたいです。

一ルートは?

5月に愛知県を出発して、夏のうちに北海道まで沿岸部を伝っていき、日本海側を南下して、九州、四国を経て戻ってくる。できるだけ海岸沿いを行いました。東京までは、割とすぐ5月中とか6月前半には着きました。

一行つてみて何が見えてきた?

自分が思った以上に、たくさんの職業があるんだなということを感じました。小学校のころから先生になるんだというつもりでいましたので、ほかの職業にはあまり関心がなかったんです。でも、いろいろなところをまわってみて、その土地土地でいろんな人の生活があるんだと実

感しました。自分が知っていた職業というのは、ほんの少しだけだったんだということと、先生という職業もそんな狭い中から選んでいただろうなというのに気が付きました。選択肢が広がったというのがありまして、もっといろんな仕事について調べてみたいなと思います。そのうえで教師という仕事を選択できたなら凄くすてきなことだと思います。自転車で乗って日本一周したからといって、できるようになったことって、特に何もありません。自転車を速くけるようになったとか、虫に動じなくなったとか、外でも眠れるようになったとか、それぐらいなんです(笑)。ただ、いろんなことに興味が持てるようになったし、やる気にもなりましたし、やってやるぞという気持ちにもなれました。これからですよ。

Lecture

【レクチャー】
特別講義や講演会など

クリエイティブディレクター 坂上 博氏による 特別講座が行われました

2014年5月22日(木)、クリエイティブディレクター坂上 博氏を講師に招いた特別講座「広告表現論」が、本学西キャンパスG棟207教室で行われました。

坂上氏は、広告代理店(株)大広でクリエイティブ部長や企画開発部長、(財)2005年日本国際博覧会協会職員、(株)大広 ONES名古屋支社支社長を経て、現在は坂上CD研代表やプリテック(株)顧問を務められています。主な作品として、総理府：政府広報「総合企画」や郵政省「日本国際切手展」などがあり、日本雑誌広告賞金賞、日本新聞協会新聞広告賞奨励賞などを受賞されています。

本講座では、「気持ちにしっかり届けるための、華のある広報・クリエイティブ」と題し、主にデザインワークの前に行われる、

“コミュニケーションをデザインする”という考え方についてのレクチャーが行われました。

今回の華のある(=気持ちに届く)広報・クリエイティブの流れは、「マーケティング戦略」、「コミュニケーション戦略」、「クリエイティブ戦略」の3つのパートで構成されています。

最初に「マーケティング戦略」のパートでは、課題発見から解決策の提示まで、筋道を立てて考えるためのマーケティングコンセプトの構築と、そのための調査・分析法などについて学びました。次に「コミュニケーション戦略」のパートでは、対象物の新たな価値や意味を見出し、ライバルとの差別化を図るために、消費者とコミュニケーションを高めるキーワードの作り方や戦略ワードの目的などについて教わりました。

最後の「クリエイティブ戦略」のパートでは、表現コンセプトのメソッドとして“クリエイティブジャンプ”(キービジュアル)、“正解のクリエイティブ”(コミュニケーションデザイン)、“華のあるクリエイティブ”(差別化と共感のデザイン)の3つの手法について、ご自身が手がけた作品を事例として、その構築のプロセスを解



1 坂上 博氏
2 華のあるクリエイティブ：サプライズ事例(坂上氏の作品から)
3 華のあるクリエイティブ：共感・実感事例(坂上氏の作品から)
4 華のあるクリエイティブ：美力事例(坂上氏の作品から)
5 広告表現論を受講する学生たち

説されました。

最後に坂上氏は「この講座で3つの戦略について説明しましたが、マーケティングコンセプトや商品コンセプトは、クライアントや広告代理店にお任せして、デザイナーはコミュニケーションコンセプトとキーワード(戦略ワード)、気持ちに届く広報・クリエイティ

ブの3点に注力してください。また、マーケティングコンセプトから華のある広報・クリエイティブまでが、一貫通貫した構成になっていることがとても重要だということを忘れないようにしてください。」と述べられ、本講座を終えられました。

International exchange Activity

【国際交流活動】
海外の学術姉妹提携校との
交流活動など

パリ エコール・ノルマル 音楽院副校長による 公開講座が行われました

2014年5月8日(木)、本学音楽学部主催の公開講座が東キャンパス3号館ホールで開催されました。この公開講座は一部と二部に分かれ、第一部は、パリ エコール・ノルマル音楽院副校長、ジャンルイ・マンサール氏によるフランスピアノ作品の解説と公開レッスン、第二部は、本学とパリ エコール・ノルマル音楽院との交歓演奏会として行われました。

最初に、音楽学部長山田敏裕より挨拶が行われ、本日のプログラムとジャンルイ・マンサール氏及び通訳の中沖玲子氏(パリ エコール・ノルマル教授・本学客員教授)の紹介がありました。

マンサール先生より、「本日はフランスの作曲家ラヴェルとド

ビュッシーの2曲のレッスンをします」ということで、さっそく公開レッスンに入りました。

最初にレッスンを受けたのは、ピアノコース3年生の佐藤肇子さんと、ラヴェルの「鏡」より第4曲“道化師の朝の歌”をまず、彼女自身が演奏しました。

学生の演奏後に、マンサール先生より曲目の背景や曲自体の解説、演奏する上で留意する点、特に重要な箇所やリズムなどが指摘され、詳しく講義されるかたちでレッスンが進行しました。

ラヴェルの“道化師の朝の歌”は、スペイン風なメロディーとリズムが情熱的に展開されている曲で、「この曲を弾くときは、スペインの強烈な光と、濃い影、すなわち、光と影のコントラストを意識することが大切」とのお話でした。また、「スペインの音楽を語る時に欠かすことの出来ない作曲家はシャブリエで、シャブリエが1883年に作曲した狂詩曲「スペイン」を聞いてみてください」とのことで、この曲が会場で放送されました。また、「スペインの音楽を理解するために『フラメンコ』を聞いてみましょう」という



ことで、フラメンコの曲も流されました。

ラヴェルの母の祖国はスペインで、ラヴェル自身もスペインに近いフランスで生まれたこともあり、自然にスペインの音楽に親しんでいた背景がありました。ラヴェルの“道化師の朝の歌”には『フラメンコ』の曲の中にあるギターのリズム、また、タップやカステネットのリズムなどが組みこま

れています。「このようなリズムを理解することもそうですが、最も大切なのは曲の背景を考えて想像することです」と解説講義されました。

続いて、レッスンを受けたのは、ピアノコース4年生の河原優那さんで、課題曲はドビュッシーの「版画」より第2曲“グラダナの夕べ”でした。曲の特色やメロディー、テンポや背景などについ

て詳しく解説していただきました。「この曲はドビュッシーの中でも最も官能的な曲の一つで、出だしの長いドのシャープは時を止めるような不思議な感じがします。最初のメロディーは、遠くの彼方から聞こえてくるような感じで、聞こえるけど何も見えないイメージです。その後は、リズムが大切となっています。遠くから聞こえる音と、急に近くからメロディーが出るなど対比的な動きがあります。映画を撮るときのカメラマン

の動きを連想させるメロディーもあります。最後は、前のメロディーの思い出のようなイメージと考えると良いと思います。ドビュッシーの「版画」の意味は、画家が版画でいろいろな絵を描くように、音楽でいろいろなシーンを描くことを意味しています。ドビュッシーがアルベニスの「イペリア」や「ラ・ベガ」を聞いた時に、カーネーションや蒸留酒の香りを感じるといったように、眼を閉じて、この曲の背景を連想していた

だくと良いと思います」などと解説され、公開レッスンを終了しました。

第二部は交歓演奏会で、最初は、本学の作曲コース教授田中範康が作曲した「ピアノのための3つのMonologueより第1曲（2007年）」が、山本多恵佳氏（本学契約助手）により演奏されました。

続いて、ジャンルイ・マンサール氏が作曲した「歌とピアノのための『4つのメロディー』より、第2曲「夜が分かたず愛」と第4曲

「夜の抱く夢」が、ソプラノ松波千津子（本学教授）とピアノ山田敏裕で演奏されました。曲の歌詞対訳は本学講師の西村和泉が担当しました。二人の愛や夢など情念溢れる情景が、ソプラノの華麗な歌声とピアノの演奏に乗って会場いっぱいに披露されました。

最後は、本学の作曲コース教授堀田秀雄が作曲した「ピアノ組曲『音の回廊』より第8番と第8番（2012年）」が、山本多恵佳氏により再び演奏され、終演となりました。

News & Topics

人間発達学部

2014年度 にこにこワークショップを 開催中です

本学では、名古屋芸術大学子どもコミュニティセンターが主体となり、近隣にお住まいのお子さまと保護者の方のために、子育て

ち・子育てを支援する取り組みとして、「にこにこワークショップ」を開催しています。

期間は、2014年5月14日(水)～7月17日(木)で、前期として20回、水曜日と木曜日、午前10時から11時30分まで開講しています。9時30分から入室できます。

会場は、名古屋芸術大学東キャンパス11号館1階で、内容は、「自由な遊び」と「テーマ遊び」を取り入れています。前期の内容とスケジュールは右記の通りです。

なお、このワークショップは後期にも開講される予定です。

		水曜日	木曜日
5月	14日	はじまりの会	15日 作って遊ぼう 担当：伊藤 冴子
	21日	一緒に遊ぼう 担当：雑賀 澄子	22日 戸外で遊ぼう 担当：渡邊 美和子
	28日	戸外で遊ぼう 担当：雑賀 澄子	29日 一緒に遊ぼう 担当：渡邊 美和子
6月	4日	作って遊ぼう 担当：雑賀 澄子	5日 戸外で遊ぼう 担当：伊藤 冴子
	11日	一緒に遊ぼう 担当：渡邊 美和子	12日 一緒に遊ぼう 担当：雑賀 澄子
	18日	戸外で遊ぼう 担当：渡邊 美和子	19日 作って遊ぼう 担当：伊藤 冴子
	25日	一緒に遊ぼう 担当：雑賀 澄子	26日 戸外で遊ぼう 担当：渡邊 美和子
7月	2日	作って遊ぼう 担当：雑賀 澄子	3日 作って遊ぼう 担当：伊藤 冴子
	9日	一緒に遊ぼう 担当：渡邊 美和子	10日 世代間交流 担当：雑賀 澄子
	16日	戸外で遊ぼう(水遊び) 担当：雑賀 澄子	17日 戸外で遊ぼう(水遊び) 担当：渡邊 美和子



「自由な遊び」と「テーマ遊び」について
入室後、「自由な遊び」を楽しみます。場所や雰囲気慣れた頃「テーマ遊び」を行い、色々な遊びを通して、楽しさを親子や友達と共有できるよう工夫しています。内容はお楽しみに!!
※大学生の参加もあります。お兄さん、お姉さんと楽しく遊びましょう。

「ミニミニ講座」と「地域交流活動」について
今年度も、大学の教員が専門を活かして、子育てについての「ミニミニ講座」を開講します。その他、地域で活動されている方のお話しも取り入れて行く予定です。



音楽学部

パーカッション フェスティバル 2014 イン ナゴヤが 開催されました

2014年5月11日(日)、中部地方で活動する打楽器関係者（中学生、大学生、一般の愛好家、プロの奏者など）が一堂に会し、日ごろの活動成果を披露するイベント、第12回「パーカッション フェスティバル 2014 イン ナゴヤ」が本学にて開催されました。

東キャンパス3号館ホールで行われたメインコンサートには、愛知県立芸術大学や名古屋音楽大学、名古屋高等学校、三重県立木本高等学校で活動する、打楽器アンサンブルをはじめ、一般市民吹奏楽団の「豊田楽友協会吹奏楽団」、「kudou Percussion Group」など、9団体がエントリーしました。コンサートでは、マリimbaやティン

パニといった馴染みのある打楽器の他、スティールパン(スティールドラム)やアングロン(インドネシアの伝統的な竹製楽器)など、日ごろ聴く機会の少ない打楽器によるアンサンブル演奏も披露されました。

10年ぶりの参加となる本学からは、弦管打コースで打楽器を専攻する手嶋莉子さん、植田光紀さん、鈴木佑弥さん、知念杏奈さんの4名が参加しました。演奏曲はマリimba奏者でもある吉岡孝悦氏が1996年に発表した「4台のマリimbaのための『スクエア・ダンス』」で、四角形に配置されたマリimbaの周りを、奏者が移動しながら演奏するといった難度の高い曲にチャレンジしました。息の合った奏者の4人は、16分音符のスピード感溢れる演奏とともに、見事なパフォーマンスを見せてくれました。

そして、フィナーレでは、ビブ



1 本学の学生による演奏シーン

2 フィナーレ曲「ラブソディ」の演奏シーン

3 打楽器演奏ワンポイントレッスンの様子

4 2号館ロビーで打楽器の展示・販売も開催された

5 多数の皆さまにご来場いただきました



ラフオンのソロを、本学大学院2回生の金 夢が担当しました。また、「ラブソディ」（作曲：外山雄三）を出演者全員で演奏。ステージいっぱいに並べられた、打楽器

が奏でる力強いサウンドに、ホール全体が包まれました。奏者・関係者の想いが込められたこの演奏に、会場から惜しめない拍手が送られました。

なお、このメインコンサートに先駆け、東キャンパス2号館中アンサンブル室では、全日本吹奏楽コンクールへ向けた、課題曲攻略

のためのワンポイントレッスンが開講されました。コンクールに参加予定の高校などの約70名が受講。本学打楽器講師の三宅隆文による

課題曲のレッスンでは、真剣な面持ちの受講者から、矢継ぎ早に質問が飛ぶなど、熱のこもったレッスンとなりました。また、同じく

2号館のロビーでは、協賛各社による打楽器の展示・販売が行われ、大勢の来場者で賑わいをみせていました。

音楽学部

音楽学部同窓会 第33回 新人演奏会が 開催されました

2014年5月21日(木)、名古屋市熱田区の熱田文化小劇場において、名古屋芸術大学音楽学部同窓会主催の第33回新人演奏会が開催されました。

この演奏会の出演者は、本年3月に本学を優秀な成績で卒業され、それぞれの分野でその将来が囑望されている方々です。卒業して間

もない演奏家の皆さんにはこの演奏会を契機としてより一層の飛躍が期待されています。

プログラムは、ソプラノ(川井亜理沙さん)、トランペット(伊地智文さん)、ソプラノ(安達沙希さん)、電子オルガン(時田莉佐さん)、ピアノ(首藤友里さん)、ヴァイオリン(富田祥子さん)、ピアノ(碓大知さん)の7名による演奏でした。

卒業して2ヶ月の若き演奏家によるフレッシュで感性溢れる演奏に、会場から盛大な拍手が送られていました。



音楽学部

コンクール入賞者の 表彰式が行われました

2014年5月20日(火)、本学東キャンパス1号館6階の大会議室で、年間を通じた音楽の各種コンク

ールにおいて入賞し、特に優秀な成績を収めた学生・卒業生の表彰式が行われました。今回は、2012年および2013年二年間の受賞者に対する表彰となりました。

受賞者の氏名が読み上げられ、学長の竹本義明より、一人ひとり

に賞状と賞金を手渡されました。

最後に、学長および山田敏裕音楽学部長より受賞者へのお祝いと、今後の活躍に対する激励の言葉が送られて、表彰式を終了しました。

受賞された方々は下記の通りです。



2012年度 コンクール入賞者の学内表彰者

コンクール名	受賞	楽器	学年	氏名
第4回岐阜国際音楽祭コンクール	声楽部門 大学・一般の部 第1位・岐阜市長賞	声楽	卒業生	稲場 薫
クオリア音楽フェスティバル 第3回オーディション	大学生部門 第1位	ピアノ	3年生	首藤 友里
第4回東京ピアノコンクール	一般A部門 第3位			
第4回岐阜国際音楽祭コンクール	ピアノ部門 専門 大学・一般の部 第1位・グランプリ 岐阜県知事賞・文化人特別賞	ピアノ	3年生	碓 大知
第4回東京ピアノコンクール	大学部門 第1位			
第6回横浜国際音楽コンクール	ピアノ部門 一般の部 第2位 F.Liszt賞			
第6回横浜国際音楽コンクール	ピアノ部門 一般の部 第1位	ピアノ	大学院2年生	山本多恵佳
第6回横浜国際音楽コンクール	ピアノ部門 一般の部 第2位 D.Shostakovich賞	ピアノ	卒業生	佐藤なつみ
第14回万里の長城国際音楽コンクール	第2位	ピアノ	4年生	秀平 雄二
第14回日本演奏家コンクール	大学の部 第3位	ピアノ	4年生	岩田 晃
第4回岐阜国際音楽コンクール	ピアノ部門 専門 大学・一般の部 文化人特別賞			
第6回横浜国際音楽コンクール	ピアノ部門 一般の部 第3位 邦人作品賞	ピアノ	4年生	増岡 真実
クオリア音楽フェスティバル 第3回オーディション	一般の部 第3位 (1,2位なし)	ピアノ	卒業生	山田 愛子
第1回大阪音楽コンクール	管楽器部門 第3位	クラリネット	4年生	浅井 美帆
第13回大阪国際音楽コンクール	木管楽器 Age-U 第3位	フルート	4年生	岡本 卓也
第18回みえ音楽コンクール	フルート部門 第1位 三重県知事賞	フルート	4年生	勝田 晴香
第6回横浜国際音楽コンクール	サクソフォン部門 一般の部 第3位	サクソフォン	卒業生	所 克頼
第6回横浜国際音楽コンクール	管楽器部門 一般の部 第3位	クラリネット	卒業生 研究生	松本 有可

コンクール名	受賞	楽器	学年	氏名
第9回クラリネットアンサンブルコンクール	第3位	クラリネット	卒業生	松本 有可 小栗 静華 中道 悠典 村田 俊之 伊藤美佳里

2013年度 コンクール入賞者の学内表彰者

第6回岐阜国際音楽祭コンクール	打楽器部門 大学・一般の部 第1位・審査員特別賞	打楽器	大学院修了生	川村 法子
	コンチェルト部門 大学・一般の部 第1位・岐阜市長賞	ピアノ	4年生	碓 大知
第7回横浜国際音楽コンクール	ピアノ部門 大学・一般の部 第1位・岐阜市長賞・審査員特別賞	ピアノ	大学院1年生	戸田 恵
	管楽器部門 大学の部 第1位	フルート	3年生	林 里紗
第5回各務原音楽コンクール	管楽器部門 大学の部 第2位	クラリネット	4年生	高田 翔梧
	ピアノ部門 一般の部 第2位	ピアノ	卒業生	直江 慶子
第15回日本演奏家コンクール	最優秀賞	ピアノ	卒業生	荒谷あさみ (旧 服部)
第16回日本フルートコンヴェンションコンクール	ピアノ部門 一般の部 第2位 及び 名古屋市長賞・審査員特別賞	ピアノ	卒業生	和田 紋加 (旧 浅野)
第2回名古屋音楽コンクール	アンサンブル部門 銀賞	フルート	4年生	佐藤 千春 新野 智子
第23回日本クラシック音楽コンクール	管楽器部門 第2位(1位なし) 併せて 現代音楽特別賞	クラリネット	卒業生	松本 有可
	全国大会声楽部門一般女子の部 第3位	声楽	大学院1年生	太田 麻華
第1回山田貞夫音楽賞	全国大会ピアノ部門一般男子の部 第1位グランプリ	ピアノ	卒業生	秀平 雄二
	ピアノ部門 特選	ピアノ	大学院修了生	水野 佐紀
第2回日本ユーフォニアム・チューバ協会学生ソロコンクール	チューバシニア部門	チューバ	卒業生	吉田 東南

デザイン学部

津島市×名古屋芸術大学 官学連携プロジェクト 「ふれあいバスの車窓から」

2014年度デザイン実技Ⅲ-2の授業(地域活性化ポスターの制作:永井瀧登講師)は、特定の地域を題材として、その地域の活性化の助力となるポスターを制作。

課題を通して、マーケティングから企画立案、表現案の構築、プレゼンテーションまでの一連のプロセスの習得を目指しています。

この授業で、本年度も愛知県の津島市市長公室企画政策課とタイアップしたプロジェクトとして「ふれあいバスの車窓から」に取り組み、本講座受講生を対象としたオリエンテーションが4月17日

(木)、本学西キャンパスのB棟デジタル工房で開催されました。

津島市役所からは市長公室企画政策課長安藤公一氏と、企画政策課行政経営グループ主事山田巧氏が来られて、まず学生達に資料が配布されてから、永井講師による授業の進め方についての説明があり、さっそくオリエンテーションが始まりました。

オリエンテーションは、最初に安藤課長の挨拶があり、山田巧主事から、パワーポイントによる映像を用いて行われました。

企画のコンセプトは『「ふれあいバス(津島市が運行している巡回バスの愛称)」の利用促進イメージビジュアルの考察』で、ふれあいバスや地域が持つイメージを可視化・象徴化(ビジュアル

ル化)し、バスや地域への愛着を持ってもらうことを企画の狙いとしています。

何を視覚化するのか具体的な内容については、まず、街と、そこに溶け込むバスを一体化させたイメージデザインで、「津島」が持つイメージと、「ふれあいバス」が持つイメージを融合させ、「ふれあいバスがある街」をビジュアルとして表現します。次に、ふれあいバスのコースイメージで、4コース(Aコース:公共施設巡回コース、Bコース:神島田コース、Cコース:神守北周りコース、Dコース:神守南周りコース)の中から2コースを選んで、それぞれのコースが持つ表情をビジュアル化します。との説明がありました。制作に当たっての規格・条件は、ポスターはB3サイズ横で作成すること、バスのコースイメージは、28cm角の正方形の中に収まるサイズとすること、の2点です。

次に、「津島市ってどんなところ?」というタイトルで、約1400年以上前から津島神社の門前町として栄えた津島市の歴史や文化、名所・旧跡、文化財や祭り、さらに、自然や地理的魅力などについて、映像を用いて詳しい説明がありました。また、「津島市巡回バス「ふれあいバス」とは」と題して、4つのコースについて、コースガイドとエリア内の施設やその特色などが詳しく説明されました。聴講した学生達も津島市についての理解が深まったようでした。

そして、ビジュアル化後の展望としては、制作されたビジュアルを何に使うかについての説明がありました。これについては、ふれあいバスや地域のPRとして市の作成する発行物への利用、ふれあいバス車内への掲出の2点が示されました。

この後、担当の永井講師より制作物に関する確認と注意事項が発表され、オリエンテーションが



1挨拶をする安藤公一課長(左)。中央は山田 巧主事、右は永井龍登講師
2この企画のコンセプトについての説明資料
3上空から見た津島市天王川公園の丸池
4ふれあいバスコースガイド(Aコース)
5ふれあいバスの説明資料

終了しました。このプロジェクトは、この後、中間発表などを経て、7月3日(予定)のプレゼンテーションへと進められました。

デザイン学部

**㈱ワールド×名古屋芸術大学
産学連携事業
Mozoワンダーシティ-FLAXUS
ウィンドウディスプレイ制作**

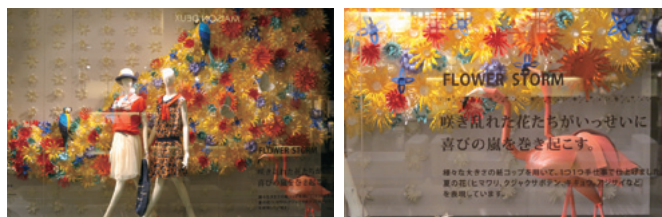
㈱ワールドが美的感動のあるライフスタイルを提供するストアとして全国展開するFLAXUS。その名古屋店(名古屋市西区二方町mozoワンダーシティ内)のウィンドウディスプレイのデザイン提案と制作を、本学デザイン学部メディアコミュニケーションデザインコースが受託し、その作品制作がこのたび完了。ウィンドウへの飾りつけが4月23日(水)に学生たちの手によって行われました。

今回採用された作品は、2014年サマー表現テーマActiveの中から、タイトルは「FLOWER STORM」で、「咲き乱れた花たちがいっせいに喜びの嵐を巻き起こす。様々な大きさの紙コップを用いて、1つ1つ手作りで仕上げました。夏の花(ヒマワリ、クジャクサボテン、キキョウ、アジサイ)などを表現しています。」と表記されています。この作品は、去る2月7日、本

学西キャンパスで学生グループによる企画案がプレゼンテーションされた中から、選ばれた作品がブラッシュアップされたもので、素材は紙コップと紙皿で、爽やかな印象を持たせるために、約600個の花を制作しました。

立体的な花の形や色などデザイン試作で使われた紙コップは200個以上。学生たちは春休み中の3月から4月と制作に1ヶ月半以上かけ担当教員の榎田珠実教授の指導の受けながら制作し、また設置の安定性やボリュームを考えた構造となる土台づくりは、杉戸洋教授の指導で取り組みました。メディアコミュニケーションデザインコースでは平面的な制作物が多く、今回のような商業スペースに立体物を展示することは初めての経験で、緊張のなか制作を進めていきました。

搬入は22日の18時頃に大学からモゾに運び込みバックヤードで土台の組み立てや設置壁の布ばりをし、閉店と同時に土台の設置を行いました。23日は朝、開店前から、一日を掛けて、無数の花たちを一つひとつ丁寧に飾り付けて



いきました。ガラス張りの狭いウィンドウの中で、真剣に作業に取り組む学生たち、脚立に上り高い場所に取り付けるには大変な労力と細心の注意が必要です。お店の前を横切ってお客さまたちも、思わず立ち止まって、作業を覗き込んでいました。こうして飾りつけ作業は無事終

了しました。最後に、ワールドの担当者の方が、照明の位置の調整をし、着衣のマネキンを運び込んでウィンドウディスプレイが完成しました。完成後、ウィンドウをバックにして、全員で記念写真を撮りました。学生たちの表情に作業をやり終えた満足感が漂っていました。

美術学部

デザイン学部

**美術・デザイン学部
OB・OG展が開催されました**

2014年5月9日(金)~5月21日(水)まで、名古屋芸術大学美術・デザ

イン学部同窓会の主催によるOB・OG展が、本学アート&デザインセンターのギャラリーで開催されました。

この展覧会は、本学同窓会が同窓生と在校生を繋ぐ機会の一環と

して開催しているもので、今回はアーティスト、デザイナーとしてすでに活躍している同窓生の作品を展示することにより、クリエイティブな活動を目指している学生の皆さんの刺激となるように企画

されました。5月9日(金)~14日(水)までの前期には、村松陵子氏(日本画卒)、和田唯奈氏(洋画卒)、川田英二氏(版画卒)、中島弘敏氏(デザイン卒)の4名の作家の作品が展

示されました。

一日置いて、16日(金)~21日(水)までの後期には、荒木由香里氏(彫刻卒)、佐久間 要氏(洋画卒)、まり木綿(伊藤木綿氏・村口実梨氏/デザイン卒)、各氏の作品が展示されました。

<村松陵子>

1996年 名古屋芸術大学美術学部日本画コース卒業(23期)
PN:御園えりい 漫画家/イラストレーター
トライデントオブデザイン マンガ学科非常勤講師
在学中より漫画執筆活動開始。イラストレーターとしての担当作多数。
小説のコミカライズ「コルセア①~③・盈月」「可愛いひと。PURE/CUTE」を担当。
現在は主にハーレクイン漫画ダンテシリーズ、ねこ漫画を執筆・連載中。

<和田唯奈>

2013年 名古屋芸術大学美術学部洋画2コース卒業(40期)
2012年 Hidari Zingaro
「GEISA1#17 鈴木心受賞 和田唯奈個展、2012
2013年~2014年 Gallery Delaive
(オランダ) 個展

<川田英二>

□経歴
1972年 高知県生まれ
1995年 名古屋芸術大学美術学部絵画科版画コース卒業(22期)
1997年 同大学院美術研究科造形専攻修了
□主な個展
2002 ギャラリーファウスト(高知)
2003 ギャラリーアルテ(丸亀)
'04 '05
2004 O ギャラリー eyes(大阪) '05
2004 graffiti (高知) '07
2004 ギャラリー AO (神戸)
2005 ウェストベスギャラリーコヅカ(名古屋) '06
2006 アトリエ倫加(高知) '13
2006 AIN SOPH DISPATCH (名古屋) '07 '08 '09 '10 '12 '13
2011 ジルダールギャラリー(名古屋)
2012 A1 ギャラリー(ソウル)

<中島弘敬>

1977年 名古屋芸術大学美術学部工芸工業デザイン科卒業(4期)
大学卒業後建築関係の会社で商業施設のデザイナーを経験後、1981年に株式会社ニムラデザイン入社。
2008年にニムラデザインを解散。同年7月に元社員を再結成して(株)ニムラデザインより商標を譲受「株式会社NDデザイン」を創立。

作家として各方面で活躍する本学卒業生の見ごたえのある作品に、学生をはじめ会場を訪れた人たちもしばしば見入っていました。
出典作家のプロフィール(略歴)は以下の通りです。

営業を開始。

代表取締役社長就任。現在に至る。

<荒木由香里>

□経歴
1983年 三重県生まれ
2005年 名古屋芸術大学美術学部造形科卒業(32期)
2006年 同研究生修了
□個展
2007 荒木由香里 展
(AIN SOPH DISPATCH/名古屋)
荒木由香里 展(伊勢現代美術館/三重)
2008 Tiny tiny garden(足助病院/愛知)
海ヨリキタリテ(弁天サロン/佐久島愛知)
2009 waltz(studio J/大阪)
2010 circus
(AIN SOPH DISPATCH/名古屋)
2011 Constellation(studio J/大阪)
あいちトリエンナーレ地域展開事業
あいちアートプログラム 荒木由香里 展 星を想う場所(佐久島 愛知)
Epistemology
(AIN SOPH DISPATCH/名古屋)
2012 APMoA Project ARCH 何 も の ち も ある 何 で も な い も の (愛知県美術館/愛知)
Category
(AIN SOPH DISPATCH/名古屋)
2013 SNIFF OUT 2013 AIN SOPH DISPATCHより出品(インテックス大阪/大阪)
Existence
(AIN SOPH DISPATCH/名古屋)

□ワークショップ

2007 ゴミで植物をつくろう。(伊勢現代美術館/三重)
2008 サクシマのイキモノをつくろう。(弁天サロン/佐久島 愛知)
2009 風景画を描こう。(やさしい家/新潟)
2011 星をつくろう。(弁天サロン/佐久島 愛知)
2012 世界に一つだけ! 素敵な人形を作ろう。(岐阜県現代陶芸美術館/岐阜)
□パブリックコレクション
2012 佐久島

<佐久間要>

1995年 名古屋芸術大学美術学部絵画科卒業(22期)
デザイナーとして入社したサルブルネイでは紙媒体を中心としたデザインに従事。



1 川田英二氏の作品
2 中島弘敬氏の作品
3 村松陵子氏の作品
4 荒木由香里氏の作品
5 和田唯奈氏の作品
6 佐久間要氏の作品
7 まり木綿(伊藤木綿氏・村口実梨氏)の作品

2000年独立。紙媒体以外にも店舗やマーチャンダイズ、WEB、と多岐なジャンルでデザイナー/アートディレクターとして活動。デザイン業務と平行し作品制作も行い、国内を中心に発表を続ける。
「ポジション2012」展(名古屋美術館)のトータルグラフィックに関わった際、ポスター等に使用されたアートワークが同展覧会場内でも展示された。
□近年代表作
「うしろの正面」あいちトリエンナーレ2010 プレイベント 展覧会トータルグラフィック AD/D
「長者町プロジェクト」あいちトリエンナーレ2010 プレイベント 展覧会ペーパーブックデザイン AD/D
「CORNEILLE」アクセサリーブランド ロゴ、トータルグラフィック AD/D
「ポジション2012 名古屋発現代美術 この場所から見る世界」展覧会トータルグラフィック AD/D
「トリエンナーレスクール 2013」告知広告 AD/D
「いまやらんでいつやるねん。」禅居庵×FOIL 現代美術グループ展 デザイン AD/D
「LA PENSEE web AD/D
「マインドフルネス! 高橋コレクション展 決定版2014」展覧会トータルグラフィック AD/D
□個展
2005 「graficos del sol」 GUILD GALLERY (大阪)
2013 「PARTICLES of LIGHT」 Makari (N.Y./U.S.A.)

2013 「UNIT/FORMATION」
galerie P+EN (名古屋)

<まり木綿>

デザイン学部デザイン学科テキスタイルコース38期卒
伊藤木綿と村口実梨による染めユニット。名古屋400年の歴史を持つ有松鳴海絞りでポップな染め物を製造、販売。
□略歴
2009年5月より大学にてSOU・SOUとのコラボプロジェクト、有松鳴海絞りによる地下足袋生地制作。これ以降有松産地に通い絞制作活動を行う。
2010年4月 SOU・SOUの商品を制作。(絞りのTシャツ、手ぬぐい、地下足袋)
2010年10月 名古屋アネックスにて京都デザインウィーク出店。
2011年3月 名古屋芸術大学デザイン学科テキスタイルコース卒業
2011年5月 大学卒業後もまもなく2人でユニットを組み、まり木綿として活動開始。5/25開店。
2011年10月 名古屋アネックス京都デザインウィーク出店。
2011年11月 クリエイティブショップ Loop第一期出店。以降、第二期、第三期と出店。
2012年2月 「べちゃくちゃんいと2012」のプレゼンテーターを務める。
その他、百貨店等催事多数参加。

Column NUA No.25

科学とアート、子育て

音楽学部教養部 准教授 茶谷 薫

突然ですがクイズです。ピアノを弾く時、指を少し曲げた形にすることが良い理由は何でしょう? 図工以外、体育も音楽も算数も国語も、学校の勉強が何もかもできなかった小学校一年生の時、私は「せめて音楽は普通にできるように」「女の子にはピアノを習わせたい」という母の希望でピアノ教室に入りました。女優・岡江久美子さん

の若き日に瓜二つの美しいA先生は「指とてのひらの間に卵を入れるような形にして弾くのよ」と教えて下さいました。「なぜそれが良いの?」と私が尋ねると、「綺麗な音が出るからよ」と先生は優しくお答えになりました。しかし「そうすると良い音が出るのはなぜ?」と再度聞いたところ納得できる言葉はなく、私にはピアノ教室も学校同様不可解なものとなってしまいました。もちろん美しく優しいA先生も、ピアノの響きも、練習して上達する達成感も大好きでしたが…。それから数年後、小中学校の理科で圧力とテコの原理に

ついて学び、保健体育で筋の仕組みを知り、ようやくこの指の形の謎が解けました。詳細は省きますが、大きく、切れの良い音を効率的に出すには、この形で鍵盤に当てるのが科学的に正解なのです。
ところで人間やサルは犬猫よりも視覚や色覚が鋭いのですが、鳥の方が遙かに優れていることはご存知でしたか。その理由は、哺乳類が夜行性だったこと、ヒトやサルの祖先の暮らし方と関係します。また通常よりも色覚の鋭い女の人がいるのは、女のX染色体が男より多いことが原因です。カラーデザイナーには女が多い、と某先生から伺

美術学部
木村節治展
Fish-vol.5が開催されました

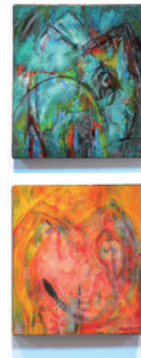
本学出身で、名古屋芸術大学保育・福祉専門学校の講師も勤める洋画家、木村節治氏の個展 (Fish-vol.5) が、2014年5月15日～20日まで、ギャラリートアマミジウム (名古屋市中区錦3丁目) で開催されました。

『美しくシンプルな形態を持つ魚。その鮮烈な軌跡は優美な空間を感じさせ、明確な存在理由として私の目に映る。』と語る木村節治氏。存在と美についての造形思

考をより一層深化させたFishシリーズ5回目の展覧会は、作家の新たな世界観と創造性が感じられます。

昨年11月から集中的に制作された今回の作品は、これまでのシ

リーズと比べると作風に変化が見られ、魚の造形が抽象的になっています。生き生きと光る眼を描くことで、魚の存在感と生命力が表現されています。



名古屋芸大グループ校特集
名古屋音楽学校

名古屋音楽学校は、名古屋芸大グループの一員として、平成24年度から経営及び運営を開始いたしました。本校は今年で創設66年を迎え、全国にも類をみない音楽の専門的な教育機関の学校として、乳幼児から成人までの広い世代に対して、幅広いジャンルによる豊かな情操、音楽専門教育、また、音楽を愛好する人々に学びを楽しく機会を提供し、音楽文化の振興と発展に寄与することを目的としています。

現在は、クラシックを中心とした本校 (名古屋市中区新栄町、スカイオアシス栄) に約900名、ポピュラーを中心とした中日教室 (名古屋中区栄、中日ビル) に約630名の生徒が在籍し、約200名の講師陣が指導にあたっております。

本校は、年間を通したレッスン以外に特別事業として、名古屋芸大が学術交流協定を締結している「パリ・エコール・ノルマル音楽院」と日本国内唯一の事業提携機関として、ディプロマ取得及び留

学制度 (詳細は本グループ通信23号で紹介) の事業推進、「ダルクローズ・リトミック国際セミナー (春期・夏期)、海外の著名アーティスト及びクリニシャンを招聘した「特別講座」の開催などの海外交流にも積極的に取り組んでおります。

また、「音楽高校・音楽大学受験のための講習会」等の開催のほか、名古屋芸大音楽学部主催の「ピアノと電子オルガンのコラボレーションコンサート」をはじめ、各種講座やコンサートの提携事業に協力しております。

今回は、「日本音楽コンクール受賞記念演奏会」の事業をご紹介します。

この記念演奏会は、今年で第82回を数え、毎日新聞社及びセントラル愛知交響楽団との共催 (協力/名古屋芸大) により開催する事業で、4月17日 (木) に愛知県芸術劇場コンサートホールで1,330名の来場者を迎えて盛大に開催されました。世界に羽ばたく日本最高峰のコンクールとして、国際的にも注目されているこの記念演奏会に、今回は名古屋音楽学校で研鑽を重ねバイオリン部門第2位入賞の辻 彩菜さん (写真1: 大垣市

出身、現在高校2年生) が出演しました。その他ピアノ、声楽、フルート各部門の第1位の方々 (写真2) が、松尾葉子さん (1968～1971年 名古屋音楽学校で研鑽、パリ・エコール・ノルマル音楽院卒) の指揮により、セントラル愛知交響楽団と共演いたしました。記念演奏会は全国6会場で開催され、オー

ケストラとの共演は、東京及び名古屋会場のみで、それぞれのソリストは、高度な技法と圧倒的な音楽表現で聴く人々を魅了いたしました。本校は、今後もこの記念演奏会を継続して実施し、若い音楽家を支援してまいりますので、ご支援とご理解をよろしくお願い申し上げます。



1 辻 彩菜さん セントラル愛知交響楽団 指揮: 松尾葉子先生 (写真提供: 毎日新聞社)

2 左から指揮: 松尾葉子先生、バイオリン: 辻 彩菜さん、フルート: 松木さやさん、ソプラノ: 竹多倫子さん、ピアノ: 石井楓子さん



いましたが、その遠因がかもしれません。

さらに話は変わりますが、赤ちゃんはなぜ可愛いのでしょうか。一方、泣き声が周囲の気分を沈ませる理由は何でしょうか。それは人間の赤ちゃんがとても未熟で周囲の年長者の助けがなければ生きられないことと関連します。ではなぜヒトは未熟なまま生まれてくるのでしょうか。

ところでサプリの摂り過ぎで健康を損ねる可能性がある理由をご存知ですか。また皆様はバッハやレンブラントの科学的生まれ変わりであることは? 音が一オクターブ違うと、周波数は二倍に

なり、二オクターブだと三倍ではなく四倍になる、といったようにオクターブごとに周波数が倍々ゲーム (指数関数的) に変わる原因は?

芸大には教養は不要だと思ふ方も少なくありません。「教養」は「liberal arts」の訳語で「奴隷ではない自由民のためのアート」です。また「art」には「人間の作った」「教養」という含意があります。現代社会で、奴隷ではない自由な人間として何を作り、どう表現すれば他の人に伝わるか。作品や演奏をもっと高め、感動を呼び起こすにはどうすれば良いか。スランプから脱出する方

法は何か。技芸だけでは出てこない答えを模索する力の源泉が教養なのです。

上のクイズのもっと詳しい話を知りたい方は授業がその辺りを歩いている時に直接お聞き下さい。



「水泳後に甲羅干しをしているニホンザルの子ども。なぜ子どもは大人より遊ぶのか?」



その子はとてもはきはきして活発で、スタイルもよくて。まだ1年生だったけど、あるとき、その子にぶつかったら、首があわつたけど、またその感傷を味わいたいと思っただけど、もうチャンスはなかったね。願もよくて、とにかく僕はその子が好きだった。たしか歌だったけど、学校をしばらく休んだ。お父さんが急に死んでしまったんだっていうんだ。そのとき、お父さんはおまわりさんと、囁きの強作で歌を歌がきただけで間に合わなかったんだって、そういうことを全部その時知ったわけです。そのあとはなぜか、はっきり覚えてないけどその子供はいままでどおりに学校に来てたように思う。



浴敷道に行きました。手を握る機械で遊ばなくちやならなかったのて急いで、いつものように、水に1分、お湯に1分入れるんです。いつも水に浸けると痛くてしようがないのに、その日は痛くないなあ、もったいないなあと思うようになりました。

マスター



アーティスト

【第25回】

<メディアと人と>



Random Accident Memory 1993年

人間の記憶は、過去ではなく、それを思い出す現在に再構成されるものであるというテーマの参加型作品。ランダムに映し出される他者の記憶から気になるものを選択して次のステージへ移行して行くうちに参加者は自己の記憶を想起し、新たな記憶の連鎖を経験する。
(岡崎乾二郎氏との共作)

津田佳紀

大学院デザイン研究科准教授
デザイン学部准教授
デザイン学科主任

(つだ よしりの)

1961年 京都府舞鶴市に生まれる
1985年 和光大学人文学部芸術学科卒

<主な個展>

- 1984年 村松画廊 (東京都)
- 1987年 村松画廊 (東京都)
- 1989年 村松画廊 (東京都)
- 1992年 村松画廊 (東京都)
- 1993年 プラスマイナスギャラリー (東京都)
- 1996年 東京都写真美術館 『(共有)される視線』 企画展示
- 2007年 名古屋大学教養教育院プロジェクトギャラリー「clas」 『歴史画のための調査』 企画展示



私たちの歴史の中で生産されたすべての人工物とその意匠は、通常各分野の歴史(西洋美術史、あるいは近代デザイン史など)として、限られた時代区分と地域区分の中で研究されてきた。これらの研究は多くの成果をあげ、私たちに有益なものを与えてくれたが、対象を特定の地域や特定の時代に限定するあまり、事物の形成過程を近視眼的に見てしまうが故の誤診にも陥ってきた。例えば人工物の形成過程と、生物(自然界)の形成過程を混同して、不用意に進化論的な言説を人工物の歴史に持ち込み、多くの誤解を生んだケースもある。レーモンド・ローウィの『流線型デザイン』(※1)は、僅か五十年程度の自動車の意匠の変遷から、数十億年を射程とする進化論(自然淘汰)の言説を想起させる。しかしそれは生物学的な意味での分析ではなく、デザイナーがつくりあげた神話であり、進化論とは無縁である。また、作品や

意匠の“意味”と“解釈”に重点を置きすぎた従来の歴史研究は、個々の“かたち”の研究から離れてしまった。このような問題点に異議を唱え、“かたち”の分析を展開したのが、ジョージ・キューブラー(George Kubler)の『時のかたち(The shape of time: Remarks of the History of Things)』(1962)という本である。それまでの美術史では、絶対的な年代と地域によって作品を分類してきたが、キューブラーは、「ある固有な時間を内在した一連の人工物のまとまり」を一つの流れとして、複数の時間軸を並行して認識し、その中に作品を分類していった。よく似た形状や時代を超えて繰り返し描かれるモチーフなど、それまでの美術史では語られることのない作品の関連性を説明しようとした。

通常、デザインは、まずオーダーがあつ

て、それに対してのアウトプットとしてのデザインなり商品なりが生産される。具体的な生産現場では極めて合理的な論理が働き、偶発性や偶有性といった不確定な要素はできるだけ取り除かれている。しかしながら、世の中でヒットしている商品を考えてみると、必ずしも顕在化したニーズがあり、オーダーがあって必然的に生まれてきたものばかりでないことがわかる。(この傾向は“工場”で作らない人工物 = 情報コンテンツやサービスプログラム等において特に顕著である)このような顕在化していない欲求や、歴史の中に堆積した無意識を、メディアを使って可視化してみようというのが、津田氏の一連の作品なのである。

「Discredit 5-1」という作品は、イコン(聖像)の変遷に関する作品です。このCG作品においてサンプルされた図像は、時間的にはゴシックからマネイズムあたりま



「都市を映す家」展から
The History of
Japanese Chinaware
2012年

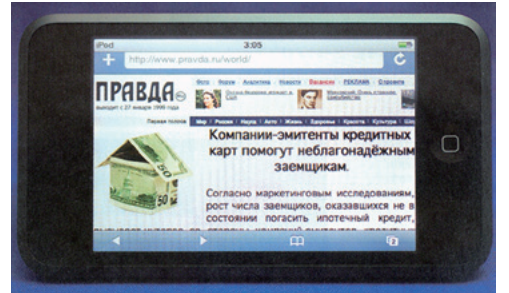
大正末期から昭和にかけて陶磁器商として栄えた井元為三郎の旧邸宅「榎木館」にて、制作された映像インスタレーション。江戸中期に作られた古伊万里の蕎麦猪口から、井元が扱った輸出用ティーカップ、さらに現代の無印良品のカップへと、移り変わってゆくアニメーション作品。製品と生産技術、さらに大衆性といったものの変化を映像化。(原田昌明氏との共作)



歴史画のための調書 2007年
なくなってしまう企業、買収などで経営権が別に移ってしまった企業に関する写真作品。ソ連時代の新聞社プラグダがサブプライム問題を報道するフィクションを作成。

Discredit 5-1
(キリスト像部分のモーフィング習作) 1992年

「聖母子像」(赤ん坊のキリストを抱く聖母マリア)と「ピエタ」(死後、十字架から下ろされたキリストを抱くマリア)からキリストのイメージをサンプリし、モーフィング映像とした作品。サンプル元は時代も場所も異なる絵画や彫刻。キリストの一生と美術史の時間の流れが二重写しとなる。



<グループ展 その他>

1985年	藤沢典明の世界展 (福井県立美術館)	第17回現代日本美術展 (東京都美術館)	群馬県青年美術展 (群馬県立近代美術館)	夜会 (ストライプハウス美術館 東京都)	1986年	神奈川県民ギャラリー (神奈川県民ギャラリー)	1987年	下北沢ラジオホームランに参加 パフォーマンス フェスティバル イン 松枝岐 (福島県)	横浜パフォーマンスアート フェスティバル'87 (横浜市民ホール)	1988年	第2回神奈川アートフェスティバル (神奈川県民ギャラリー)	アートメディアエキシビジョン88 イン フライ (福井県立美術館)	1990年	日本国際美術展 (東京都美術館)	ゲートと未来社会 (東京ゲート記念館)	東京ハイパーリアル展 (渋谷区立美術館)	ヨーロッパメディアアートフェスティバル (オスナブリュック ドイツ)	ジャパニズムアートナウ (ハノーファー ドイツ)	1991年	メディアの交叉点—版画と映像表現の現在—	(町田市立国際版画美術館 東京都)	機能—記号展 (セントゲン芸術研究所 東京都)	第4回ふくひ国際ビデオビエンナーレ (福井県立美術館)	分裂形成としての生活感情 (なるせ村田画廊 東京都)	戦後日本の前衛美術 (JAPANESE ART AFTER 1945 SCREAM AGAINST THE SKY) (グッゲンハイム美術館 サンフランシスコ近代美術館 米国)	1992年	第3回テレビビデオフェスティバル (スパイラル ガーデン 東京都)	第28回今日の作家展 (横浜市民ギャラリー)	1993年	第1回3Dグラフィック国際現代美術展リエンター (フランクフルト クunstフェスティバル ドイツ)	キャン アート ラボ オープンコラボレーション (O美術館 東京都)	第2回遊歩者展 (板橋区立美術館 東京都)	1994年	愛知県 愛知芸術文化センター CAPUT MORTUUM.2 (オスナブリュック ドイツ)	人間の条件 (スパイラル ガーデン 東京都)	1995年	日本の映像 (イメージ展) (福井県立美術館)	第2回遊歩者展 (板橋区立美術館 東京都)	1996年	マニックス オブ ディスアピアランス トゥ ディス ジャパン アズ ディスエミネーター オブ ビデオ メッセージ (ベテラルテ アス/アリス国立美術館 アルゼンチン)	オン・キャンパ / オフ・ベース (東京ビッグサイト 東京都)	コンピューター、アート、フィルム、シンボジウム (デンマーク国立映画学校)	1997年	メキシコ・人間展 (福井県立美術館 福井県)	KARADAがARTになる時 [物質になった器官と身体] (板橋区立美術館 東京都)	Asian Cultural Councilにより渡米 戦後日本の前衛美術 (JAPANESE ART AFTER 1945 SCREAM AGAINST THE SKY) (グッゲンハイム美術館 サンフランシスコ近代美術館 米国)	1999年	メディア・セレクト (名古屋港倉庫 名古屋市)	2000年	ドリーム・オン (ラフォーレ小倉 北九州市)	2001年	ラフォーレ小倉 北九州市	2002年	電子芸術国際会議2002 ISEA2002 (東京国際会議場)	2003年	ANTINOMIE展 (近畿大学国際人文学研究所)	2004年	東京ラビオパラダイスプロジェクト アウト Careof Milano (Careof-Fabbrica del Vapore ミラノ市)	2005年	「Talk with Professor Ichiro Hariu」 (NTTインターコミュニケーションセンター)	2007年	「HomeRun Factory」設立 会場「HomeRun Factory」オープニングイベント	2009年	展覧会「イメージの楽しみ」 (国際シンポジウム「イメージとしての戦後」関連企画)	2012年	「自由ラジオの時代へ 1984-2009」 (ストリーミング放送による同時中継)
-------	--------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-------	-------------------------	-------	---	-----------------------------------	-------	-------------------------------	-----------------------------------	-------	------------------	---------------------	----------------------	------------------------------------	--------------------------	-------	----------------------	-------------------	-------------------------	-----------------------------	----------------------------	--	-------	-----------------------------------	------------------------	-------	--	------------------------------------	-----------------------	-------	---	------------------------	-------	-------------------------	-----------------------	-------	---	---------------------------------	---------------------------------------	-------	------------------------	--	--	-------	-------------------------	-------	------------------------	-------	--------------	-------	---------------------------------	-------	---------------------------	-------	--	-------	---	-------	---	-------	--	-------	--

での100年間くらいの幅があり、地域もフィレンツェや、ベネチアや、フランスで描かれたキリスト像をモーフィングで繋いでいます。必ずしも信仰の意味や図像が象徴するものを探るだけではなく、イメージの変化を見て、これまで気がつかなかったものや偶然性、偶有性みたいなものが発見できるかもしれません」

扱うテーマによっては作品の意図を深読みされてしまいそうになるが、そういうことが目的というわけではないとのこと。むしろ、そこに現れる形やイメージから、新たな価値観や新しい見地でものを見る方法を意識することを目的としている。作品は、デザインの成果というよりは前衛的なアート作品に見えるが、根底に流れるものはデザインの可能性を広げるためのものという

見方もできる。その成り立ち自体が、非常に興味深い。

「1960年代生まれの僕らが育った時代は、新しいテクノロジーの展開によって、アートもデザインも音楽も変化してきた時代です。しかし現在はテクノロジーからの影響だけではなく、人間の知覚や認識がどのように触発されるかという点において、各領域の生産物のありかたが変化している時代になっています。流動的、偶発的にできている部分は、これまであまり語られていませんでしたが、社会を形成するための、もう片方の原動力になっているような気がしています。デジタルな技術を使って、記憶の中の無意識や、偶発的な欲求を引き出し、それにより新しい価値観へと更新されていくことが重要ではないかと。物事というの

は複数の時間軸の中で同時多発的に、また流動的に起こっているということを受け入れたうえで、メディアの中でどのような表現ができるかということを考えていくことが重要ではないでしょうか インターネットが登場し、簡単にだれもが情報を発信できる時代が訪れている。またそれらのアウトプットが累積され新たなデータベース(ビッグデータ)として立ち現れる事態も起こっている。これらの事態をどう理解し、どのように対応するのか? また、変貌していくメディアと人との関係性は、どう変わっていくのか。興味は尽きない。

(※1:1930年代以降のアメリカにおいて流行した様式のひとつ。本来は流体力学の理論をもとに飛行機等の空気抵抗を低減させるために考案された形態だが、しばしば、それ以外の人工物にも適用された。)

■西村和泉
(名古屋芸術大学美術学部
教養部会講師) 翻訳
『レイモン・アロンとの対話』
ミシェル・フーコー著
(水声社)



出版者(翻訳)の
出版物のご紹介です。
(編集期限までに報告されたもの)

出 Books 版

■西村和泉
(名古屋芸術大学美術学部
教養部会講師) 共著
『サミュエル・ベケット
「ドアはわからないくらいに
開いている」』
早稲田大学
坪内博士記念演劇博物館主催
「サミュエル・ベケット展」
図録



2014年度 オープンキャンパス日程

※時間は全日程とも10:00~16:00
※人間発達学部の7月8月実施分は
10:00~13:30

2014年

- 7月19日(土) 人間発達学部 10:00~13:30
- 7月20日(日) 美術学部・デザイン学部 10:00~16:00
- 8月23日(土) 人間発達学部 10:00~13:30
- 9月27日(土) 全学部 10:00~16:00
- 10月26日(日) ミニオープンキャンパス(芸大祭と同時開催) 10:00~16:00

2015年

- 3月 7日(土) 音楽学部 10:00~16:00

2014年度 音楽学部演奏会スケジュール (2014年7月~12月)

7月

コンチエルトの夕べ
指揮/古谷 誠一
管弦楽/名古屋芸術大学オーケストラ
日時/7月17日(木) 18:30開演
会場/三井住友海上 しらかわホール
入場料/無料 (全自由席)

8月

第16回ピアノ/サマーコンサート
日時/8月9日(土) 13:30開演予定
会場/名古屋芸術大学音楽学部
3号館ホール
入場料/無料 (全自由席)

NUA Strings 第7回定期演奏会

日時/8月28日(木) 18:30開演予定
会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/1,000円(当日1,500円) 全自由席

9月

ウィンドオーケストラ第33回定期演奏会
指揮/ヤン・ヴァン デル ロースト
竹内 雅一
日時/9月25日(木) 18:30開演予定
会場/日本特殊陶業市民会館
フォレストホール
入場料/無料 (全自由席)

10月

研究生特別演奏会
日時/10月9日(木) 18:00開演予定
会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/無料 (全自由席)

第22回ピアノの夕べ

日時/10月28日(火) 17:30開演予定
会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
入場料/無料 (全自由席)

11月

音楽学部第37回定期演奏会
日時/11月20日(木) 18:00開演予定
会場/三井住友海上 しらかわホール
入場料/無料 (全自由席)

12月

オーケストラ第32回定期演奏会
指揮/古谷 誠一
日時/12月4日(木) 18:45開演予定
会場/日本特殊陶業市民会館
フォレストホール
入場料/無料 (全自由席)

「Earth Echo」電子オルガンコース 第17回定期演奏会

日時/12月11日(木) 開演時間未定
会場/熱田文化小劇場
入場料/無料 (全自由席)

第33回室内楽の夕べ 小編成の部

日時/12月16日(火) 18:00開演予定
会場/熱田文化小劇場
入場料/無料 (全自由席)

第33回室内楽の夕べ 大編成の部

日時/12月18日(木) 18:00開演予定
会場/名古屋芸術大学音楽学部3号館ホール
入場料/無料 (全自由席)

チケットお取り扱い場所

- 名古屋芸術大学 音楽学部演奏課 Tel. 0568-24-5141
- 愛知芸術文化センター B2F フレイグaid Tel. 052-972-0430
- ヤマミュージック 名古屋店フレイグaid Tel. 052-201-5152
- カワイ名古屋 Tel. 052-962-3939

表紙の写真

星 順治教授
(大学院音楽研究科 音楽学部)

お昼休み2号館にて。講義の合間、ちよっと一息。お昼休みながらアンサンブル室から聞こえてくる練習の音がちよっと気にかかる様子。5月ながら、初夏を思わせる陽気。
(2014年5月30日 東キャンパス 2号館)



発行:名古屋芸術大学
企画・編集:全学広報誌編集委員会
デザイン・協力:くまな工房一社
印刷:株式会社クイックス
発行日:2014年7月10日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市庄之丘古井281番地
電話 0568-24-0359
FAX 0568-24-0369
E-mail: grouptu-shin@nuu.ac.jp



大学基準協会の認定評価を再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再度取得しました。認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。

アート&デザインセンター 2014年度展覧会スケジュール(予定)

- 7/11(金)~ 7/16(水) 2014年度前期留学生作品展
- 7/18(金)~ 7/23(水) スペースデザインコース 作品展「くねるところにすむところ」展
- 7/18(金)~ 7/23(水) 「The Five Senses」(アート&デザインコミュニケーション演習)院生展
- 7/18(金)~ 7/23(水) No Reason:Have Result 展
- 7/25(土)~ 8/ 6(水) 素材展(メタル&ジュエリーコース・テキスタイルデザインコース前期制作展)
- 9/19(金)~ 9/24(水) 名古屋芸術大学彫刻コース作品展
- 9/26(金)~10/ 1(水) 美術学部前期終了学生作品選抜展
- 10/ 3(金)~10/ 8(水) 書道アート展
- 10/ 3(金)~10/ 8(水) 名古屋芸術大学大学院 洋画制作2014
- 10/10(金)~10/15(水) 「幼稚園児たちのゲイジツ」展
- 10/10(金)~10/15(水) 「Hand Hospice ; 医療と美術 2014」展
- 10/17(金)~10/29(金) 2014年度企画展 多彩なデザインの現場から -デザイン学部特別客員教授関連プログラム展-
- 10/31(金)~11/ 5(水) アーツ・ラジオ&名古屋芸術大学 大学院同時代表現研究(洋画)・京都造形芸術大学 大学院P/P/PROJECT交流選抜展
- 11/ 7(金)~11/19(水) 2014年度企画展 SHOBU STYLE~工房しょうぶの仕事~
- 11/21(金)~11/26(水) MCD デパートメント
- 11/28(金)~12/ 3(水) Media Live/メディアデザインコース展
- 12/ 5(金)~12/10(水) 美術学部 洋画2コース選抜展(仮称)
- 12/ 5(金)~12/10(水) ラスト・プレバ展
- 12/12(金)~12/17(水) こどもの空間 絵本と椅子
- 12/12(金)~12/17(水) 2014年度後期留学生作品展
- 12/19(金)~12/24(水) ガラス・陶芸コース 2・3年生合同展覧会
- 1/ 9(金)~ 1/14(水) 日本画3年作品展
- 1/ 9(金)~ 1/14(水) 漫研展覧会(仮)
- 1/16(金)~ 1/21(水) 美術学部コース展

※会期・内容は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
【入場無料】どなたでもご覧いただけます。
お問い合わせ先/ (0568) 24-0325



Open/12:15~18:00
(最終日は17:00まで)
日曜・祝祭日原則休館